

UWC ISAK JAPAN

一年間のご報告

ANNUAL REPORT
2022-2023



ご挨拶



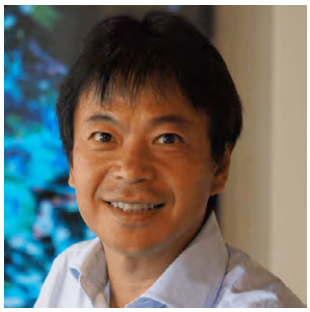
校長　マルコム・マッケンジー

2022年10月中旬にユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン（UWC ISAK）に加わったことは、私のキャリアの中で最も嬉しいサプライズのひとつとなりました。そして同時に、複雑で挑戦的な一年でもありました。リーダーの移行は簡単なことではありません。それが予期せぬものであれば更にプレッシャーがかかります。とはいえ、この一年、私たちは道を踏み外すことなく、創設時の想いに忠実であり続けました。創設当初のISAKのビジョンとミッション、そしてUWCムーブメントのビジョンとミッションの組み合わせは、独特で力強いものです。私たちは日々、理想を実現するために努力しています。生徒たちのエネルギー、意欲、目標設定には目を見張るものがあります。それは、この学校の価値を見出し、情熱と献身をもってご支援くださっている皆さまのおかげです。この浅間山の麓にある、素晴らしく刺激的な学校とコミュニティを誇りに思います！

この一年は、あらゆる意味で忘れられない年になりました。自分のリーダーとしての未熟さを痛感し、組織の至らなさを思い知らされ、まだまだやらねばならないことが山積していることに気付かされた一年でした。と同時に、そんな難局の最中でさえも、生徒や保護者の皆様が学校を信じ続けてくださり、仲間たちが真に学校を思いミッションの追求に実直であることに心打たれ、幾度も涙した一年でもありました。"If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together." これからも、関係者一同が気持ちを一つにして、目標に向かって共に歩める組織でありたいと切に願います。皆さまの長年のご支援とご信頼に、心より御礼を申し上げます。



代表理事　小林 りん



発起人代表　谷家 衛

この一年は、長年共に学校を創ってきた初代ジェミソン校長からマッケンジー新校長に代わり、最初は不安なところも沢山ありました。ところが結果としては、代表理事や新校長の素晴らしいリーダーシップの中、二人の新副校長や教職員、生徒達、そしてファウンダーやカタリストサポーターの皆さま方など、コミュニティのみんなの努力によって、UWC ISAKにとって想像以上の素晴らしい一年になりました。5月に行われた卒業式で、司会の在校生が感極まって泣きながら卒業生を見送っている姿にとても感動したのと同時に、改めてUWC ISAKは全体が一つのファミリーなんだと強く感じました。こんな学校をみんなで作ってこれたことに対して、感謝の気持ちでいっぱいになりました。この次の一年も、皆さまと一緒に、少しでも良い学校になれるよう頑張って参ります。よろしくお願い致します。





一年間のふりかえり



2022.7　サマースクール

2022年のサマースクールには、世界17か国から80名の生徒が参加しました。「言語、文化とアイデンティティ」「映像と多様性」「サステナビリティと美術」「デザイン思考」「多様性とリーダーシップ」の5つのテーマを取り入れたプロジェクト型授業と野外活動を通じた充実した13日間の開催となりました。



2022.8　新学年スタート

2019年以来初めて、全校生徒が新学年のスタートをキャンパスで迎えることができました。新型コロナウィルスによる入国制限で影響を受けていた生徒たちが無事にキャンパスに到着したことで、本校の多様性の重要性を再認識しました。



2022.9　UWCデー

毎年9月21日の「国連国際平和デー」に開催されるUWCデーでは、UWCの理念と価値観を世界中の加盟校で祝います。今年度は「Peace begins with us（平和は私たちから始まる）」をテーマに、さまざまなワークショップ等に参加し、学校のミッションと世界的な課題について意見を交換し合い、UWC加盟校としての知識を深めました。



2022.10　秋のプロジェクト・ウィークと新校長就任

今年のプロジェクト・ウィークも、生徒たちのアクティブなエネルギーに満ち溢れていました。10年生はキャンプを通してリーダーシップの基礎を学び、11・12年生はプロジェクトの実践を通して知識と経験を深めました。折りしも、ロッド・ジェミソン初代校長からマルコム・マッケンジー現校長へ体制が移行し、生徒・教職員ともに例年以上にリーダーについて考えを巡らせました。



2022.11　24時間シアター

毎年恒例のイベントとなった「24時間シアター」が開催され、生徒たちは24時間で演劇を創作し、上演することに挑戦しました。家族関係、ジェンダー・アイデンティティと宗教、人間関係と権力などをテーマに創造力あふれる劇が上演され、演者も観客も大いに楽しみながら、お互いの新たな一面を発見することができました。



2022.12　冬休み

厳しい寒さに見舞われた冬休み、母国に帰国できない一部の奨学生はキャンパスに残り、軽井沢町の施設やスキー場、教育機関でのアルバイトを体験しました。地域の方に温かく見守られながら、日本語の向上はもちろん、仕事を通して責任感や独立心を育むことができました。



2023.1　地域との交流

キャンパスに降り積もった雪を物ともせず、軽井沢にある学校の生徒たちと交流する機会が復活しました。生徒たちが授業に参加させていただいたり、政治に関するワークショップを開催したり、生徒同士の交流を通じて、地域の学校との絆を強化することができました。



2023.2　インターナショナル・デー

軽井沢町の方もお招きして開催されたインターナショナル・デーでは、各国の郷土料理の提供や生徒たちのダンスや歌によるパフォーマンスで大盛況となりました。お互いの文化を学び合い、尊重し合うことの大切さを改めて実感しました。



2023.3　春のプロジェクト・ウィーク

新型コロナウィルスによる規制が緩和されてから初めてとなるプロジェクト・ウィークが開催されました。キャンパスではもちろん、軽井沢町、東京、インド、バングラデシュへと飛び出し、社会にポジティブな変化を起こすため、それぞれのプロジェクトに邁進しました。



2023.4　多様性を讃え合う

生徒たちが文化や宗教、言語を紹介し、尊重し合うイベントが1ヶ月に渡り開催されました。バルカン半島、ラテンアメリカ、イスラム教、ヒンドゥー教、フランス語、中国語など、各生徒が自分のルーツとなる価値観と多様性の素晴らしさを再発見しました。



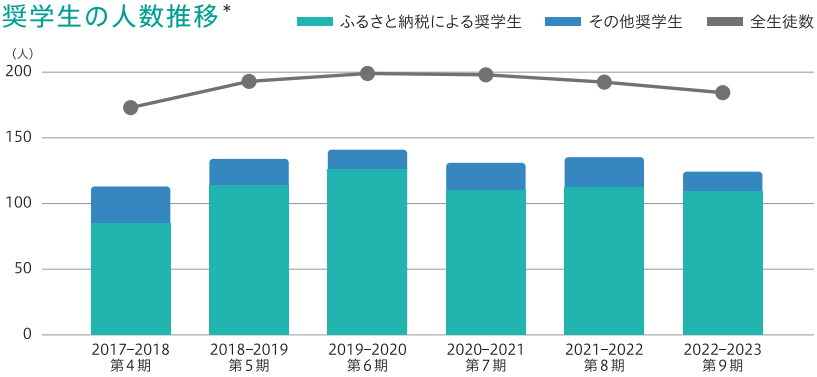
2023.5　卒業式

5月21日、第7期生が卒業式を迎えました。パンデミックの影響により、これまでで最も少ない39名での門出となりましたが、例年以上に強い絆がありました。35名が大学に出願し、うち8名は日本の大学に進学予定です。4名はギャップイヤーを選択し、社会での経験を積み、それぞれの興味・関心を追求する予定です。

ご支援者の皆さまへのお礼及びご報告

いつも多大なるご支援、ありがとうございます。当校では、全体の約7割の生徒に家族の経済状況に合わせた返済不要の奨学金を給付しております。2022年度は、全体の6割の生徒の奨学金がふるさと納税によって支えられております。皆さまお一人お一人からのふるさと納税による継続的なご支援のおかげで、多様性に富んだ当校の環境を維持し、様々な背景を持つ生徒たちが未来へ歩み出すことができます。

奨学生の人数推移*



* 奨学生はふるさと納税やその他ご支援により全額または部分奨学金を受けている生徒となります。

2022年会計年度　教育活動収支報告書

項　目	金 額（単位:百万円）
学生生徒等納付金	963.38
授業料、寮費、施設設備資金	928.64
入学金	31.20
入学検定料	3.54
寄付金	729.49
一般寄付金	35.79
特別寄付金	693.24
現物寄付	0.46
補助金	536.56
市町村補助金（個人版ふるさと納税）	473.23
地方公共団体補助金	63.33
その他	93.03
企業版ふるさと納税	35.00
ショートプログラム	44.68
雑収入	13.35
教育活動収入計	**2,322.46**
人件費支出	529.45
教員人件費支出	272.12
職員人件費・役員報酬支出	219.33
退職金支出	38.00
教育研究経費支出	625.49
奨学費支出	431.12
その他支出	194.36
管理経費支出	295.07
奨学費支出	64.51
その他支出	230.55
減価償却	79.79
教育活動支出計	**1,529.80**
教育活動収支差額*	**792.67**

* 当校は、中長期に渡り安定した奨学金制度を維持する目的で、毎年約2億円を寄付基金へ割り当てるよう最大限努めております。







当校が今日ここにあるのは、ファウンダー及びカタリスト・サポーターの皆さまのご支援のおかげにほかなりません。心から感謝申し上げます。また、ふるさと納税、マンスリーサポータークラブ、生徒への直接の奨学金、プロボノによるご支援、物資のご提供など、様々な方法でご支援いただきました個人並びに法人の皆さまにも深く御礼申し上げます。

ファウンダー

（ご支援順）

谷家 衛
小林 繁肇・りん
髙橋 百合子
山本 公哉
柳沢 正和
青井 理香
立石 文雄
林 秀彦・三千代
河野 宏子
居松 秀浩
小澤（兼信）ふみ子
ネルソン ブライアン
小柴 正浩
小島 勝
吉野 永之助
加藤 元
井上 高志
田中 将太郎
村田 貴士
髙野 真
夏野 剛
水谷 浩明
川田 尚吾
佐藤 輝英
松木 光平
出井 伸之
北城 恪太郎
井上 智治
伊藤 友則
山岸 広太郎
エアン ショー
宮澤 栄一
中島 周
小泉 泰郎
一般財団法人 小川奨学財団
衣畑 秀樹
三宅 伊智朗
本庄 竜介
鈴木 エドワード
菅原 勇一郎
辻本 春弘
堀江 伸
髙山 健
佐浦 弘一
公益財団法人 石橋財団
佐護 勝紀
岩倉 正和
神山 治貴
小林 正忠
小林 一俊
マニヤン ジャック・麻里子
加治ファミリー
佐藤 茂
武田薬品工業株式会社
長谷部 泰三
奥本 真一郎
福武 純子
本多 均
小泉 洋二朗・光美
安東 泰志
有田 浩之
岩崎 俊男・美紀子
武田 洋子
山口 典子
安渕 聖司
木村 新司
蓑田 秀策
氷室 利夫
一般社団法人 野中
インスティテュート・オブ・ナレッジ
株式会社 ホッピーミーナ
岡田記念会
川鍋 一朗
諸藤 周平
三宅 卓
ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社
永瀬 昭幸
髙井 洋子
末広 真樹子
藤武 慶三
吉澤 信司
内山 幸樹
分林 保弘
俞 梅
藤武 貴尚
古川 淳
島田 亨
佐山 展生
柏木 斉
吉田 あや子、佐々木 寛・雅子
施 艺
マクナーニ ポール・真樹
川村 隆
米日財団
藤田 恭嗣
増田 宗昭
畠山 康・麻紀子
池田 祐久
角川 歴彦
青山 健

カタリスト・サポーター

（ご支援順）

渡邊 洋行
山本 真一
真鍋 康正
馬場 功淳
大下 悟
孫 小蕾
ゴー ユーリン
YKK Holding Asia Pte Ltd.
田中 剛
藤森 義明
浜本（森）淳子
中村 春雄
小杉 明
塩田 元規
小佐野 保
大平 亮
公益社団法人リソー教育岩佐財団
公益財団法人服部国際奨学財団
阿部 亮
菅原 貴弘
志村 晶
有馬 友樹・有馬 誠
橋本 幸一郎
株式会社みずほフィナンシャルグループ
林 竜也・真理子
株式会社バイキング
玉川 憲
ゴヴァース 健二・淳
梅田 優祐
杉江 陸
小方 功
金子 英樹
池尻 由貴
井内 英夫・美佐子・郁江
田中 良和
越智 通勝
株式会社メディアドゥ
渡 伸一郎
いちごアセットマネジメント株式会社
石井 壮太郎
芳川 可奈子・裕誠
上野山 勝也

本校奨学金

安東泰志奨学金
井内奨学金
居松秀浩奨学金
佐藤茂奨学金
末広真樹子奨学金
福武純子奨学金
本庄奨学金
本庄照子奨学金
本多均奨学金
いちごアセット奨学金
ゴールドマン・サックス
YKKホールディング・アジア奨学金
W&M 太陽光奨学金

サマースクール奨学金

HSBCグループ奨学金
キャニオン・キャピタル・ジャパン奨学金
箴言16:16 奨学金
野村ホールディングス奨学金
三井住友信託銀行奨学金

ゲストスピーカーセッション

株式会社エイブル

大学進学奨学金

日本財団奨学金
シェルピー・ディビス奨学金

プロジェクトサポート

株式会社みずほフィナンシャルグループ

企業版ふるさと納税

株式会社メディアドゥ

コーポレート・サポーター

株式会社 LIXIL グループ
セコム株式会社
株式会社エアウィーヴ　ホールディングス
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
伊藤 見富法律事務所
TMI 総合法律事務所
IDEO Tokyo
パナソニック株式会社
マッキンゼー・アンド・カンパニージャパン
ベイン・アンド・カンパニー

（敬称略）

ご支援ありがとうございます。

皆さまからの様々なお力添えにより、生徒たちは個々の興味に基づいたプロジェクトを探求することができます。
未知の領域に飛び込み、試行錯誤を繰り返しながら身につけた学びは、卒業後の生徒たちの活躍の大きな原動力となっています。

卒業生の声



環境課題をテーマにしたゲームアプリの開発

Poonya（タイ/ Class of 2020）、Kunawat（タイ/ Class of 2018）、
PanPan（タイ/ Class of 2017）、Vori（タイ/ Class of 2019）

日本の大学でSDGsについて学んでいるPoonyaは、故郷タイの環境問題を改善したいという想いから、タイ国籍のUWC ISAK卒業生3名と共に、リサイクルについて楽しく学べるゲームアプリ「The Collectors」を開発し、2021年タイSDGs Game Fest賞を受賞しました。このゲームには、UWC ISAKの授業で身につけたリーダーシップ、デザイン思考、コンピュータ・サイエンスの技術、寮生活やStop and Clean（全校で行う毎日の掃除の時間）で学んだ掃除やゴミの分別等、在学中に経験したあらゆる学びが詰まっています。タイのゲーム会社True Axionの開発協力を得て、現在Apple store、Google playでタイ語版ゲームアプリとして販売され、Google playではダウンロード数が10,000件を突破しています。

Apple store

Google play

未来のリーダーたちへ繋ぐバトン

Hanaka（日本/ Class of 2018）

UWC ISAKはあなたにどんな影響を与えましたかという質問に、「私の人生を変えました！」と笑顔で即答したHanaka。「UWC ISAK在学中に、私はより前向きに、オープンに、そして好奇心旺盛になりました。多様なバックグラウンドを持つ人々と交流し、自分がどれほど小さな世界にいたのかに気づいたのです。そして、たくさんの新しいチャンスに飛び込みました。貴重なその経験があったからこそ、今の私があるのです。」彼女は、卒業生組織の一員として、そして当校のサマースクールのカウンセラーとして、未来のチェンジ・メーカーへ在学中の学びを伝え、次世代へ恩を送ろうと努めています。彼女をはじめとする卒業生たちが、新たなサポーターとなり、当校の精神を未来へと繋げています。



企業版ふるさと納税「プロジェクト観音」





困っている子どもと地域社会を繋ぎ、子どもの権利や福祉等に関する認識を高めることを目的としたこのプロジェクトは、軽井沢町にお住まいの100名以上の方を招待し、陶芸、藍染、絵画、世界の料理など、様々なワークショップを開催しました。参加者からは、ワークショップを楽しみながら、各国の子どもが直面するリアルな現状を直に生徒から聞くことができ、様々な子どもたちに関わる課題を国際的な視野で考えるきっかけとなったという感想を多くいただきました。

ご遺贈によるご寄付

近年、ご遺志を「次の世代」のために役立てたいとお考えになる方が増えています。当校では、このような尊い想いに応えるため、遺贈（遺言によるご寄付）、相続財産等のご寄付を承っております。ご相談窓口も設けております。

詳しくはこちら

ウェブサイト芳名帳のご案内

全ご支援者の方々の芳名帳はウェブサイトに掲載させて頂いております。こちらからご確認ください。

https://uwcisak.secure.force.com/Donation/goencrm__webguestbook?cd=001

武力紛争、気候変動、物価高騰など、世界情勢は依然として混迷の只中にあります。一方で、生成AIが飛躍的な進歩を遂げ、新たな可能性を切り拓きました。未来の予測が困難な現代では、新しい技術を柔軟に取り入れながら、自ら考え、多様性を尊重し、より良い社会のために挑戦し続ける若いリーダーたちが一層必要とされるのではないでしょうか。UWC ISAKは教育の力を、若者の可能性を信じています。今後も多様な価値観が共存する環境で、チェンジメーカーの育成に邁進してまいります。皆さまの長年に渡る温かいご支援に改めて感謝申し上げますとともに、これからも1人でも多くの生徒に教育の機会を提供できますよう、ふるさと納税をはじめとした各種ご支援をご検討いただけますと幸いです。

学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン
〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町長倉5827-136
https://uwcisak.jp/jp/

← ふるさと納税のご寄付はこちらから

UWC ISAK JAPAN